



こんにちは

2012年度 第1回

質的調査法研究会です♪

hello

私たちの実践研究のその後—方法論を越えて—

話題提供者：広瀬和佳子（早稲田大学大学院博士後期課程）

尾関史（早稲田大学日本語教育研究センター）

鄭京姫（早稲田大学日本語教育研究センター）

市嶋典子（秋田大学国際交流センター）

日時：2012年7月27日（金）16:00-18:00

Bonjour

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 203教室

質的調査法研究会ではこれまで、さまざまな質的研究の方法に注目するとともに、そうした既存の方法を自らの研究にどう活用していくか、既存の方法を選択し、応用するだけでよいのかという問題意識をもち、勉強会や研究会での議論を重ねてきました。広瀬・尾関・鄭・市嶋（2010）は、そうした研究会での発表と議論をふまえ、実践研究の記述をめぐる自らの試行錯誤の過程を分析し、研究の目的と方法の関係について論じました。

今回の研究会では、広瀬・尾関・鄭・市嶋（2010）で論じた実践研究とは何か、実践研究をどう記述すべきかという観点から話題提供し、論文執筆後の話題提供者の考え方の変化についても語り、参加者のみなさまと研究の目的と方法に関する議論をさらに深めたいと考えています。

下記の論文を読んでご参加くださいますようお願いいたします。

広瀬和佳子・尾関史・鄭京姫・市嶋典子（2010）「実践研究をどう記述するか—私たちの見たいものと方法の関係—」『早稲田日本語教育学』7, pp. 43-68.

（以下のURLから論文をダウンロードできます。）

[http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/29804/1/WasedaNihongoKyoikugaku\\_07\\_Hirose.pdf](http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/29804/1/WasedaNihongoKyoikugaku_07_Hirose.pdf)

参加申し込み不要。どなたでもご参加いただけます（入場無料）。

Aloha

